様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 31 日現在

機関番号：12102
研究種目：基盤研究（B）
研究期間：　2010　～　2012
課題番号：22310149
研究課題名（和文）　地域主体環境ガバナンスのための伝統知データベース構築

研究課題名（英文）　The Establishment of Traditional Knowledge/ Wisdom Database for Community-based Environmental Governance

研究代表者
松井　健一（MATSUI KENICHI）
筑波大学・生命環境系・准教授
研究者番号：　50505443

研究成果の概要（和文）：環境ガバナンスに資するデータベースの概要を研究代表者が管理するウェブサイトに構築するとともに、伝統知とその法的問題点について査読入り学術図書 1 冊と当該課題に関する査読入り学術論文を 4 本出版した。学会発表は 7 回行った。また、毎年著名な研究者を筑波大学と国連大学高等研究所へ招へいし、シンポジュウムと研究者交流を行い、オーストラリア、カナダ、アメリカ、ドイツ、インド、ブラジルの研究者との共同研究へとつなげることができた。当該課題に関する修士論文を 3 本主査として指導した。

研究成果の概要（英文）：I have laid the foundation for databasing traditional knowledge/ wisdom that contributes to environmental governance in my official homepage. During the three-year grant period, I published one peer-reviewed academic book on the ethical and legal implications of traditional knowledge studies and four academic journal articles. I made seven presentations at academic conferences. With the grant, I invited internationally well-recognized scholars and indigenous leaders from overseas to the University of Tsukuba and the Institute of Advanced Studies-United Nations University for this research project. I also have established a solid academic collaboration with scholars and indigenous leaders in Australia, Canada, India, Germany, Brazil, and the United States. I also supervised three master's theses on traditional knowledge as academic supervisor.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2010 年度	3,200,000	960,000	4,160,000
2011 年度	4,400,000	1,320,000	5,720,000
2012 年度	4,800,000	1,440,000	6,240,000
年度			
年度			
総　計	12,400,000	3,720,000	16,120,000

研究分野：　環境史・地誌における伝統知
科研費の分科・細目：　地域研究
キーワード：伝統知、環境ガバナンス、先住民族

１．研究開始当初の背景

（１）　先住民族と地元民の伝統的知識・知恵が地域主体の環境ガバナンスに果たす役割に関する研究は、オーストラリアや北米、インドなどでさかんに行われていた。しかし、本研究課題を開始する当初、日本では、ほとんど注目をあびていなかったといっても過言ではない。そこで、国内でのリンクを先住民族のアイヌ民族と沖縄のグループに限定した。また、海外での研究について資料をできるだけ収集した。同時に、著名な研究者とのネットワーク作りを精力的にこなした。

　こうした当初の過程で明らかになったのは、多くの研究者が伝統知を研究する際、研究倫理についての重要性を強調してきたが、実際に詳しく研究課題として突き詰めてこなかったことである。

　また、伝統知に関する研究は、研究成果の全容がほとんど明らかにされてこなかったため、伝統的知識の定義からはじまり、知識の有用性、環境ガバナンスへの役割について体系的な研究が遅れていた。

（２）　本研究開始当初、こうした問題を明らかにするため、海外の研究者を招へいし、一緒に問題点について考えるところから始めた。特に、伝統知を環境ガバナンスに「使う」という点に関しては、懐疑論者も多かったため、どのように研究に汎用性をもたせるのかについて、慎重にディスカッションを行った。

（３）　ただ、北米の先住民族の文化の表象と知的所有権の問題については、以前に出版があったため、この問題についてさらに突き詰め、将来的に著書としてまとめることができるよう準備をはじめた。

２．研究の目的

（１）　長年地域に根ざしてきた環境管理に関する伝統知をどのようにまとめて情報提示してゆけば持続可能な環境利用に最大限資することができるのだろうか、という疑問を命題とした。

（２）　この疑問に答える具体策として、本研究は環境管理や保全に関する伝統知を日英言語対応のデータベースに搭載し、伝統知を生かした地域主体の環境ガバナンスにしすることを目的とした。

（３）　また、近年各地方で環境倫理や伝統知が軽視され技術・経済開発依存が浸透するなか、残された伝統知を地域ごとに集め比較し、現代社会のありかたを見直すことを 2 つ目の目的とした。

３．研究の方法

（１）　文献調査と出版・発表
伝統知に関する文献を収集し、傾向と問題点を明らかにするとともに、出版の可能性をさぐった。

（２）　シンポジュウムやワークショップ開催など国際連携の基盤づくり
研究者や先住民族のリーダーと意見交換や共同研究の可能性をさぐった。

（３）　データベース構築
データベースのデザインを作成し、そこへ情報を入力した。

４．研究成果

（１）　伝統知研究に関する倫理的な方針を著書の中で明らかにした。特に、先住民族の文化を論文やさまざまな媒体で表象する際の留意点を提示した。

（２）　伝統知と生物多様性維持の関連について、2 つの論文で明らかにした。特に、政策や法整備の問題点を歴史的な視野から明らかにした。

（３）　筑波大学内に伝統知に関する研究グループを再組織し、公認を受けるとともに、このグループを媒体として海外の研究者との連携を強めた。

（４）　ブラジル連邦パラ大学の研究者の研究グループに登録され、共同研究を行った。

（５）　オーストラリア国立大学の研究者と連携をとり、この大学の先住民族研究所からレジデントのステータスを受けた。それを拠点に、オーストラリアでの持続的な共同研究の基盤を築くことができた。

（６）　ドイツの研究機関の最高峰とされるルードビッヒ・マクシミリアン大学のレイチェルカーソン・センターからフェローとしてのステータスをもらい、25 年度から共同研究をすることができるようになった。

（７）　カナダのブリティッシュ・コロンビア大学と全国メイティー評議会のプレジデントと強い関係を結ぶことができ、長期的な共同研究の基盤を築くことができた。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 3 件）

① Kenichi Matsui, "Water Ethics for First Nations and Biodiversity in Western Canada." *International Indigenous Policy Journal*, vol. 3, no. 3 (2012): 1-23. http://ir.lib.uwo.ca/iipj/vol3/iss3/4. 査読有

② Kenichi Matsui, "Water Rights Settlements and Reclamation in Central Arizona as Cross-Cultural Experience: A Reexamination of Native Water Policy." *American Indian Culture and Research Journal*, vol. 35 (2011): 91-118. http://aisc.metapress.com/content/uq761561507m1444/?p=a26db124e87c4c6a84e358cd10008806&pi=0. 査読有

③ Kenichi Matsui, "Waterpower Developments and Native Water Rights Struggles in the North American West in the Early Twentieth Century: A View from Three Stoney Nakoda Cases." pp., 2213. In Louis Knafla and Haijo Westra, eds., *Aboriginal Title and Indigenous Peoples: Canada, Australia, and New Zealand*. Vancouver: University of British Columbia Press, 2010. 査読有

〔学会発表〕（計 7 件）

① Tseveenkhand, Yadmaa and Kenichi Matsui, "Environmental Management through Tourism in Khan-Khentii State Special Protected Area, Mongolia." *Hawaiian International Conference on Arts and Humanities*. Honolulu, Hawaii, USA. January 14, 2013.

② Kenichi Matsui, Intersectionality of Native Traditional Knowledge, Water Rights and Biodiversity in Western Canada." *Hawaiian International Conference on Arts and Humanities*. Honolulu, Hawaii, USA. January 11, 2013.

③ Kenichi Matsui, "Ramsar Implementation and Cultural Value." *International Conference on Wetlands in Central Asia and the Ramsar Convention*. Issykul, Kyrgyz Republic. November 20, 2012.

④ Kenichi Matsui, "Who Protects TK and Who Defines It?: Traditional Knowledge Study Revisited." *Owning Inheritance: Ethical and Legal Implications of Traditional Knowledge Studies*. Institute of Advanced Studies-United Nations University, Japan. December 14, 2011.

⑤ Kenichi Matsui, "From Native Water Law to Indigenized Water Governance: A View from My Past Historical Research." Seminar at the Centre for Aboriginal Economic Policy Research, Australian National University, Australia. March 4, 2011.

⑥ Kenichi Matsui, "The Protection and Extension of Traditional Knowledge and Wisdom: A Case for Water Ethics. *International Symposium on Traditional Knowledge and Wisdom*. University of Tsukuba, Japan. December 6, 2010.

⑦ Kenichi Matsui, "Defining Métis Economic Communities." *Powley Legacy: Mapping the History of Métis Nation Rights*. Saskatoon, Canada. July 16, 2010. （招聘講演）

〔図書〕（計 2 件）

① 松井健一,『先住民族の文化と主権』, 筑波大学出版会　2013 年.　全 314 ページ. 査読有

② 松井健一,「生物多様性へのカナダの挑戦：水利権と伝統知からのアプローチ」, pp. 110-132. 西川芳昭編『生物多様性を育む食と農：住民主体の種子管理を支える知恵と仕組み』（担当章：第 5 章）, コモンズ出版, 2012 年.　査読有

〔その他〕

ホームページ等

http://www.envr.tsukuba.ac.jp/~envethic

http://life.tsukuba.ac.jp/activity/research_group.html

www.carsoncenter.uni-muenchen.de/staff_fellows/carson_fellows/kenichi_matsui/index.html

６．研究組織

(1)研究代表者

松井　健一（MATSUI　KENICHI）

筑波大学・生命環境系・准教授

研究者番号：　50505443

(2)研究分担者

増田　美砂（MASUDA　MISA）

筑波大学・生命環境系・教授

研究者番号： 70192747

杉藤　重信（SUGITO　SIGENOBU）
椙山女学園大学・人間関係学部・教授
研究者番号： 70206415

伊藤　太一（ITO TAIICHI）
筑波大学・生命環境系・教授
研究者番号： 40175203

(3)連携研究者
渡邉 和男（WATANABE　KAZUO）
筑波大学・生命環境系・教授
研究者番号： 90291806

西川 芳昭（NISHIKAWA　YOSHIAKI）
名古屋大学・国際開発研究科・教授
研究者番号： 80290641